

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社アバンライフサポート		
事業所名	アバンセグループホームこころ(1階)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	令和4年2月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsvoCd=2372201943-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染が拡大している中、感染防止対策のため利用者様の健康管理、マスク、手洗いなど感染対策を行っています。安心、安全に生活していただけるよう、利用者様の身体状況を常に把握し、寄り添い支援しています。
外出や面会制限が止むを得ない折、利用者様にはZOOMや電話等で交流していただき、毎月のいきいき通信でも施設の様子をご覧いただいています。
外部との交流が少ないため、時々気分転換を兼ねて少人数でドライブに出かけて、楽しんでいただけるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念、行動指針、ホーム理念を申し送り時に唱和し、ホーム理念に沿って利用者主体の支援に努めている。ボタン付けや衣服のほころびの繕いなど、家族がすることを職員がすることで利用者に寄り添い、「自分の家と思ってもらえる」ような支援に取り組んでいる。
ホーム周辺の散歩の他、コロナの感染状況を見てドライブに出かけるなど、コロナ下においても利用者が安心して外出できる機会を作っている。目標達成計画のテーマにも掲げており、対応可能な範囲で外出を支援し、気分転換によって「気持ちがいいね」と、利用者から好評を得ている。
職員は研修や勉強会に参加して知識や技術の向上を図るとともに、利用者に寄り添って意向や要望を汲み取り、強いチームワークをもってその実現に向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針を掲示して各フロアで毎朝出勤職員が唱和して、よりよい介護を心がけています。	法人理念、行動指針の他、ホーム理念を掲示し、申し送り時に唱和して職員への理解・浸透を図っている。家族に替わって職員が支援し、利用者が「自分の家」で過ごしているように思えるような支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時等、近所の人と積極的に挨拶して交流している。昨年は訪看事業所が開催している、お出かけ広場に数回参加して交流している。	訪問看護事業所が開催する「お出かけ広場」に参加している。自治会長や民生委員、地域住民とは運営推進会議やボランティア受入れ、避難訓練などを通して交流が途絶えないように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方をお招きしての施設内でのイベントは控えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、会議は中止しています。二カ月に一回、活動報告資料と新聞をお届けして、ご意見をご記入いただき今後のサービス向上に活かしている。	運営推進会議は紙面開催とし、状況報告などを会議参加者に配付し、意見や提案などを聞き取っている。外出が難しい状況の中、外出の必要性の要望・提案を受け、ドライブ外出の再開に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者様の様子を年2回報告しています。また、困って時は担当者様に連絡をとり相談している。入院中で金銭管理に困った方の後見人の契約を進めた。	各種報告や届出などで、市の担当者と連絡を取りあっている。入院中の利用者の金銭管理について、行政からの要請を受けて後見人契約の手続きを進める等、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の会議を三カ月に一回委員会を行っています。身体拘束の理解ができるように研修の場を持ち学習し実践している。	身体拘束をしない取組みを定めている。身体拘束適正化委員会を開催し、対象者をピックアップして拘束をしない支援を検討・実践に繋げている。法人主催の研修を受講し、スピーチロックをはじめ身体拘束をしない意識の向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でスピーチロックや行動の抑制などしないための声かけ対応を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、研修の機会がありませんでしたが、利用者様の後見人である司法書士さんに困った時は相談できる環境にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとっていただき、ご家族様の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えをしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある来所記録に意見等を記入できるようにしている。また、電話連絡時に利用者のご様子を報告、家族様の意見、希望を伺い運営に反映させている。	家族との連絡は、意向に沿って電話やメールを使用している。毎月の「いきいき通信」で利用者の現況を伝え、意見・要望の言い易い環境を作っている。面会もZoomを利用する等、家族の要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所には代表者への意見が伝えられるように提案箱が設置されている。また、ミーティングや申し送り時に提案や意見は伝えてもらっている。	毎月のミーティングや申し送り時の他、事務室に提案箱を設置している。法人の施設会議には、管理者の他に職員代表も参加し、直接意見や要望・提案をすることが出来る環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回職員全員に自己評価をしてもらい給与の見直しを検討している。資格取得のための研修を本社で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップのため、本社で研修の年間計画があり、順次参加して知識を高めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おでかけ広場に参加させていただき、交流している。また、法人内でのリモート会議、研修に参加して情報交換の場にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人、ご家族の要望を十分に聞かせてもらっている。入所前にご本人とお会いして状況、生活習慣を把握して安心して入所していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設内を見学していただき、困っていることや質問を伺い、気軽に話せる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族が必要としている支援を見極めるため、1～2泊のお試しも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とコミュニケーションをとることで希望を知り、できる事をしていただき、充実感を感じてもらおうよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、連絡事項がある時に近況報告して、本人の様子を共有し、家族様にも寄り添っていただき、協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会等の交流の機会は減っているが、書面、電話、ZOOM等で関係が途切れないよう、家族と協力し支援に努めている。ドライブ行事で車窓から馴染の公園を見てもらっている。	散歩で行き交う人と挨拶するなど、近隣住人との関係構築・維持に努めている。馴染みの美容院に通ったり、折り紙等の趣味で生活習慣の継続を図ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつでも利用者同士で会話できるようソファを各フロア3カ所に置き、活用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の折、退所後のフォローが以前に比べ、支援しにくくなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを密にとり、希望や意向を把握している。職員は勤務に入る時、おひとりづつ声かけし挨拶しながら、日々のご本人の表情を汲み取っている。	利用者に寄り添い、発語や表情、仕草、反応等から意向や希望の把握に努めている。汲み取った意向・要望はiPadで記録して職員間で共有し、介護計画の作成に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との面会時や、家族からの情報を共有している。入所前のサマリーも参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子が把握できるようタブレットに入力している。その日の様子を夜勤者に申し送り、職員が情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のご希望に添う計画書を作成するために、定期的に評価を行い、望む生活の実現のために起こりうる課題を本人、家族、職員と話し合いサービスに繋げています。	毎月職員全員でカンファレンスを行っている。計画作成担当者がモニタリング評価を基に、定期的に短期3ヶ月・長期6ヶ月で見直しを行い、状態や意向が変われば適宜見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPad、食事摂取表、排泄表に記録して情報を共有している。それを基に介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望、要望に応えるため、密にコミュニケーションをとっている。体調に変化がみられた時は、速やかに家族にお伝えして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室に訪問美容に来ていただき、会話が弾んでいる方もみえます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月2回の訪問診療があり、利用者様の健康管理をしていただいています。他科の受診は家族対応を基本としているが、柔軟に対応している。	利用者全員がホーム協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受け、希望者は歯科や口腔ケアも受診できる。通院は家族対応を基本としているが、「利用者第一」を目指し柔軟な対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をおり、週1回看護師による健康管理を行っている。状態の変化や心配なことがあれば、相談して対応の仕方など指導を受けています。また、24時間電話連絡がとれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の相談員と看護師に現在の状態を伝えていただいています。また、退院後のためにかかりつけ医に情報提供していただき、安心して退院していただけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針にて、終末期のあり方を伺っています。その時、施設でできる事、できない事を十分に説明しています。説明後、看取りを希望される方には、対応させていただきます。	入居時に重度化した場合の指針を説明し、医療的ケアがなければホームでの看取りも可能としている。看取りの際は、看護師を講師として事前準備や支援方法等の研修を行い、職員の心的負担軽減にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED研修を毎年行い、緊急時に使用したこともあります。また、急変時の対応、手順、応急手当のマニュアルを作成して定期的を確認して実施できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え飲料水、食品等備蓄してある。全職員がすぐわかるよう各フロアに避難場所、避難経路を掲示している。消防訓練は年3回行っている。コロナ禍のため近隣の方は参加していただけていない。	マットや毛布等を利用し、階段での避難や避難経路の確認等を組み入れた防災訓練を年3回実施している。過去には地域住民も見守り役で参加しており、食料や生活備品も備蓄している。	災害は火災だけではなく、オール電化設備であることから、長時間の停電対策等、具体的な被災想定での対策・検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を害されない声掛けや、人生の先輩であるという尊敬の気持ちを持って接している。書類やメモ等は必ずシュレッダーにかけ破棄している。	法人研修やミーティングで、接遇に関する研修や勉強会を行っている。「人生の先輩」という尊敬の気持ちを持ち、無理強いをせずに意思を確認した上で支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通ができる利用者様とは希望や自己決定を尊重している。できない方は、表情や好みを考慮して対処している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが、すべてのペースを守ることは難しい現状。体調、安全を考慮して希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には洗顔、髪をとかし身支度を支援しています。化粧が好きな方や、服装にこだわりのある方は、そのように支援している。近隣の美容室から二カ月に一回、訪問美容に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物を取り入れたり、献立が偏らないように工夫している。目でも楽しんでいただけるよう彩に気をつけています。コロナ禍のため、職員は少し離れたところで一緒に食事をする時間を設けています。	職員が食材から献立を考え、3食手作りの食事を提供している。利用者も野菜の皮むきなど、力量に応じて手伝っている。テイクアウトを利用して、利用者の要望を取り入れた食事の提供にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った、食事、水分量を設定し、その日の体調にあわせて摂取するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。ご自分で出来ない方には介助し、うがいができない方は、口腔ウェットティを使用してケアしている。希望者は、週1回歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレ誘導を基本に、排泄記録を記載することで排泄パターンを把握している。リハパンから布パンツへ移行したり、排泄パターンを知り、失禁を防いでいる。	自立の利用者は見守りを基本とし、排泄記録を利用した声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援している。リハパンから布パンツに改善した利用者や、夜間の安全を考慮してポータブルトイレを使う利用者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、牛乳、水分摂取を工夫している。歩行運動の声かけを行い、排便を促せるよう運動してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとり希望のタイミングでは入浴できていないが、週2回の入浴を基本に行っている。拒否がある時は、日にちを変更したり、楽しんでもらえるよう工夫している。	週2回の入浴機会がある。1階には機械浴を導入し、車いす利用者の入浴も可能である。季節湯や入浴剤も利用し、色や香りを楽しんでいる。入浴拒否の利用者には、声掛けや日を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体制に気を配り、休息できるように支援している。居室の温度、湿度調整を行い気持ちよく眠れる環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内容を理解し、体調の変化を確認しながら支援している。誤薬を防ぐために、服薬チェック表を工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての方ではないが、一人ひとりに合った役割をもち、張り合いを感じてもらえるよう支援している。毎日の掃除、洗濯物、食事作りの準備やお盆拭き等お手伝いしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍、外食、喫茶店等は控えています。本人の希望に添った外出はできていない。時々、皆様をドライブにお連れしています。	利用者の体調や気候等を考慮し、ホーム周辺の散歩を継続している。コロナ感染の状況を見てドライブにも出かけ、好評を得ている。玄関先のプランターを愛でたり、洗濯物を取り込むなど、日常生活の中で外気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により後見人を介して現金を所持している利用者がいるが、原則は現金を持たない事になっている。必要がある時は立替をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族との関係をつなぐ手段として、電話の使用の支援をしている。ご本人が携帯電話を所持している方もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレの入口には大きな文字で表示しており、迷わないようにしてある。壁画は、季節を感じていただける飾りつけをしている。毎朝、室温、湿度を記録し、空調に配慮している。	電話ヒアリングのため施設見学未実施	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも好きな時に利用できるソファがフロアーに3カ所あり、利用者同士談笑したり、くつろいだりできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染の物、その人の大切な物、大好きな物を居室に置き、安心できる居室と感じてもらっている。	電話ヒアリングのため施設見学未実施	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットから転落の危険がある方は床対応や低床ベットを使用している。残存機能に着目し、その方に合ったできることや、やりたいことを生活の中に取り入れている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社アバンライフサポート		
事業所名	アバンセグループホームこころ(2階)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	令和4年2月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2372201943-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染が拡大している中、感染防止対策のため利用者様の健康管理、マスク、手洗いなど感染対策を行っています。安心、安全に生活していただけるよう、利用者様の身体状況を常に把握し、寄り添い支援しています。

外出や面会制限が止むを得ない折、利用者様にはZOOMや電話等で交流していただき、毎月のいきいき通信でも施設の様子をご覧いただいています。

外部との交流が少ないため、時々気分転換を兼ねて少人数でドライブに出かけて、楽しんでいただけるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針を掲示して各フロアで毎朝出勤職員が唱和して、よりよい介護を心がけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時等、近所の人と積極的に挨拶して交流している。昨年は訪看事業所が開催している、お出かけ広場に数回参加して交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方をお招きしての施設内でのイベントは控えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、会議は中止しています。二カ月に一回、活動報告資料と新聞をお届けして、ご意見をご記入いただき今後のサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者様の様子を年2回報告しています。また、困って時は担当者様に連絡をとり相談している。入院中で金銭管理に困った方の後見人の契約を進めた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の会議を三カ月に一回委員会を行っています。身体拘束の理解ができるように研修の場を持ち学習し実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でスピーチロックや行動の抑制などしないための声かけ対応を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、研修の機会がありませんでしたが、利用者様の後見人である司法書士さんに困った時は相談できる環境にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとっていただき、ご家族様の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えをしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある来所記録に意見等を記入できるようにしている。また、電話連絡時に利用者のご様子を報告、家族様の意見、希望を伺い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所には代表者への意見が伝えられるように提案箱が設置されている。また、ミーティングや申し送り時に提案や意見は伝えてもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回職員全員に自己評価をしてもらい給与の見直しを検討している。資格取得のための研修を本社で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップのため、本社で研修の年間計画があり、順次参加して知識を高めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おでかけ広場に参加させていただき、交流している。また、法人内でのリモート会議、研修に参加して情報交換の場にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人、ご家族の要望を十分に聞かせてもらっている。入所前にご本人とお会いして状況、生活習慣を把握して安心して入所していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設内を見学していただき、困っていることや質問を伺い、気軽に話せる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族が必要としている支援を見極めるため、1～2泊のお試しも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とコミュニケーションをとることで希望を知り、できる事をしていただき、充実感を感じてもらおうよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、連絡事項がある時に近況報告して、本人の様子を共有し、家族様にも寄り添っていただき、協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会等の交流の機会は減っているが、書面、電話、ZOOM等で関係が途切れないよう、家族と協力し支援に努めている。ドライブ行事で車窓から馴染の公園を見てもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつでも利用者同士で会話できるようソファを各フロア3カ所に置き、活用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の折、退所後のフォローが以前に比べ、支援しにくくなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを密にとり、希望や意向を把握している。職員は勤務に入る時、おひとりづつ声かけし挨拶しながら、日々のご本人の表情を汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との面会時や、家族からの情報を共有している。入所前のサマリーも参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子が把握できるようタブレットに入力している。その日の様子を夜勤者に申し送り、職員が情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のご希望に添う計画書を作成するために、定期的に評価を行い、望む生活の実現のために起こりうる課題を本人、家族、職員と話し合いサービスに繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPad、食事摂取表、排泄表に記録して情報を共有している。それを基に介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望、要望に応えるため、密にコミュニケーションをとっている。体調に変化がみられた時は、速やかに家族にお伝えして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室に訪問美容に来ていただき、会話が弾んでいる方もみえます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月2回の訪問診療があり、利用者様の健康管理をしていただいています。他科の受診は家族対応を基本としているが、柔軟に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をおり、週1回看護師による健康管理を行っている。状態の変化や心配なことがあれば、相談して対応の仕方など指導を受けています。また、24時間電話連絡がとれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の相談員と看護師に現在の状態を伝えていただいています。また、退院後のためにかかりつけ医に情報提供していただき、安心して退院していただけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針にて、終末期のあり方を伺っています。その時、施設でできる事、できない事を十分に説明しています。説明後、看取りを希望される方には、対応させていただきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED研修を毎年行い、緊急時に使用したこともあります。また、急変時の対応、手順、応急手当のマニュアルを作成して定期的に確認して実施できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え飲料水、食品等備蓄してある。全職員がすぐにわかるよう各フロアに避難場所、避難経路を掲示している。消防訓練は年3回行っている。コロナ禍のため近隣の方は参加していただけない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を害されない声掛けや、人生の先輩であるという尊敬の気持ちを持って接している。書類やメモ等は必ずシュレツダーにかけ破棄している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通ができる利用者様とは希望や自己決定を尊重している。できない方は、表情や好みを考慮して対処している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが、すべてのペースを守ることは難しい現状。体調、安全を考慮して希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には洗顔、髪をとかし身支度を支援しています。化粧が好きな方や、服装にこだわりのある方は、そのように支援している。近隣の美容室から二か月に一回、訪問美容に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物を取り入れたり、献立が偏らないように工夫している。目でも楽しんでいただけるよう彩に気をつけています。コロナ禍のため、職員は少し離れたところで一緒に食事をする時間を設けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った、食事、水分量を設定し、その日の体調にあわせて摂取するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。ご自分で出来ない方には介助し、うがいができない方は、口腔ウェットティを使用してケアしている。希望者は、週1回歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレ誘導を基本に、排泄記録を記載することで排泄パターンを把握している。リハパンから布パンツへ移行したり、排泄パターンを知り、失禁を防いでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、牛乳、水分摂取を工夫している。歩行運動の声かけを行い、排便を促せるよう運動してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとり希望のタイミングでは入浴できていないが、週2回の入浴を基本に行っている。拒否がある時は、日にちを変更したり、楽しんでもらえるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体制に気を配り、休息できるように支援している。居室の温度、湿度調整を行い気持ちよく眠れる環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内容を理解し、体調の変化を確認しながら支援している。誤薬を防ぐために、服薬チェック表を工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての方ではないが、一人ひとりに合った役割をもち、張り合いを感じてもらえるよう支援している。毎日の掃除、洗濯物、食事作りの準備やお盆拭き等お手伝いしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍、外食、喫茶店等は控えています。本人の希望に添った外出はできていない。時々、皆様をドライブにお連れしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により後見人を介して現金を所持している利用者がいるが、原則は現金を持たない事になっている。必要がある時は立替をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族との関係をつなぐ手段として、電話の使用の支援をしている。ご本人が携帯電話を所持している方もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレの入口には大きな文字で表示しており、迷わないようにしてある。壁画は、季節を感じていただける飾りつけをしている。毎朝、室温、湿度を記録し、空調に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも好きな時に利用できるソファがフロアーに3カ所あり、利用者同士談笑したり、くつろいだりできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染の物、その人の大切な物、好きな物を居室に置き、安心できる居室と感じてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットから転落の危険がある方は床対応や低床ベットを使用している。残存機能に着目し、その方に合ったできることや、やりたいことを生活の中に取り入れている。		